

【講義と演習⑥】個を支える地域づくり（前半）

プロセスレコードシート

本人のニーズ・状況	主任相談支援員の働きかけ	地域・近隣住民	専門機関
夫婦「退院後の夫の状態が不安」「借金もあり、生活費が心配」→リハビリの様子確認	病院にて、MSW の仲介の中で、ケマネと一緒に聞き取りをし、退院後の公的サービス利用調整をケマネが行い、金銭面での調整を主任が行うこととなった。		包括調整し妻が以前お世話になっていた居宅が夫のケマネを担当。
(3日後) 自宅で妻と面談。「生活費が心配」、「親類と疎遠で回りに頼る人がいない」	ケマネと同行し、住環境の確認のため、自宅を訪問。借金（ローン）や税の滞納の確認。 借金の整理について、弁護士に相談し、借り換え可能な金融機関へも相談。（入院費について、分納依頼） 姉妹に連絡し、妹が母のライフラインの通帳を管理。		ケマネ…夫の状態から風呂の見守りのための訪問介護を調整 弁護士…法的措置の可否確認 金融機関…本人宅訪問 病院…夫リハビリ、分納手続き
(半月後、退院) 夫婦「電気の交換などちょっとしたことが心配」	その他買い物や電球の交換などが心配とのことで、担当の民生委員につなぎ、見守りを依頼。	民生委員、近隣住民 2 名で定期的な見守りのためのケネット活動チームを編成	ケマネ…民生委員と顔合わせ
→ケネット活動開始			
夫婦「家計管理に不安がある」→日常生活自立支援事業に興味有	借金について、借り換えは、難しいことを報告後、日常生活自立支援事業を進めると共に、家計管理を透明化するという条件から、家計支援を導入。		社協日活担当者…事業説明 家計支援員…レシート・記録の整理。（グラフ化）
(1か月後) 夫婦「夫の状態もよくなり、訪問介護を終了したい」	定期訪問時、サービス利用継続の説得を試みるが夫婦の気持ちは動かなかった。		ケマネ…継続利用の説得失敗。 包括が定期的に訪問することに
(半月後) 「買い物や通院が心配」	地区内に外出支援サービスがあることを夫婦に伝え、利用できるよう調整。	民生委員が申し込み用紙を自宅へ届けて、利用説明。	市社協地域担当…意図的に介護技術習得研修を実施し、妻利用、初回時に同行し、対応方法について確認。
→外出支援サービス利用開始 妻「普段から触れ合える機会がほしい」	家計支援訪問時に、買い物支援利用の様子をききつつ、地域住民とふれあう機会について確認し、民生委員へサロンへの参加を進めてほしいと伝える。	民生委員…地区内で実施しているサロンへの誘いを妻へ打診。	
→サロンの利用開始			

【講義と演習⑥】個を支える地域づくり（前半）

(ケアネット定期訪問時) 妻「市役所からの郵便物の内容がわからない」	民生委員から問い合わせがあり、訪問した際「避難行動要支援者台帳への登録案内」であることがわかり、説明し、その場で記入してもらい、市担当課へ提出。	ケアネット協力員（近隣住民）…訪問時訴えがあったので、民生委員へ確認	
(ケアネット定期訪問時) 夫婦「冷蔵庫が壊れた」	緊急時物資等支援の「遊休品バンク」に在庫があることを確認し、搬入。	ケアネット協力員及び民生委員…訪問時相談されたことを報告	遊休品バンク（市社協 VC）担当…バンク内物品の情報提供
(現在) 夫婦「借金を減らすための借り換えを実現」「預金がしたい」	夫の身体的状態も安定し、夫婦も地域からの孤立も少しづつ解消。 家計の収支についても家計支援を継続し、計画的な支出を実践し、借り換えが実現。		家計支援員が借り換え等の手続サポートを実施。預金できるよう、家計支出計画を作成し、毎月確認。